

学会活動記録(平成五年度後期)

- ◇一月一六日(土) 学生委員企画による留学生との交流会が知徳館四〇一会議室で行われた。能楽部有志の協力を得て、「能」の体験を通じて同志社AKPの留学生と交流した。
- ◇一月三〇日(土) 学会誌「日本語日文学」第五号が発刊された。
- ◇一月一〇日(水) 学生委員企画による映画鑑賞会が知徳館一八三教室で行われた。廣瀬千紗子先生の解説で上田秋成原作・溝口健二監督の「雨月物語」を観賞した。
- ◇一月一三日(土) 学生委員企画による紅葉狩りが東福寺において行われ、山内塔頭東光寺で短歌を詠んだ。
- ◇二月一日(土) 日本語日文学会主催の秋季講演会が知徳館二八三教室で行われた。「食の言語文化史」という題目で大阪大学教授前田富祺先生の講演が行われた。
- ◇二月一六日(木) 学会奨学金授与式が行われ、選考を経た六名の学生に奨学金が授与された。
- ◇一月八日(土) 学生委員企画による百人一首かるた大会が

知徳館四二〇教室において行われた。

◇三月一〇日(木) 学会の「会報」第一四号が発刊された。

学会活動記録(平成六年度前期)

- ◇四月二一日(木) 学生委員企画による歌舞伎鑑賞会(南座主催第二回歌舞伎観賞教室参加)が行われた。
- ◇五月八日(日) 学生委員企画による茶摘み体験会(宇治市主催市民茶摘み会参加)が京都茶業センターにおいて行われた。
- ◇五月二八日(土) 学生委員企画による京菓子「鶴屋吉信」見学会が行われた。
- ◇六月五日(日) 学生委員企画による文楽鑑賞会(国立文楽劇場主催第十一回文楽鑑賞教室参加)が行われた。参加者を代表して本学会員三名が舞台上で実際に人形を操った。
- ◇六月一八日(土) 日本語日文学会の第九回総会及びシンポジウムが知徳館二八三教室で行われた。「漢字の機能」というテーマで、村木先生をコーディネーターに、吉野・大島・本間先生をパネリストとして熱心な討論が行われた。
- ◇七月一〇日(日) 学会の「会報」第十五号が発刊された。

人事異動

廣瀬千紗子

一九九四年四月二〇日

和泉書院

『近世文学選 芸能篇』（共著）

一九九四年四月三〇日

◇四月から学芸学部教授として門前正彦先生（日本語学）、
ならびに短期大学部研究助手として河野俊之先生（日本語教
育）をお迎えした。

本間洋一

『本朝無題詩全注釈 三』

一九九四年五月三〇日

新典社

会員著書紹介

村木新次郎

『日本語要説』（共著）

一九九三年五月二〇日

ひつじ書房

吉海直人

『源氏物語研究ハンドブック』

一九九四年六月一日

翰林書房

丸山敬介

『日本語教育演習シリーズ①教えるためのことばの整理 1』

京都日本語教育センター

一九九四年三月一五日

『日本語教育演習シリーズ②教えるためのことばの整理 2』

京都日本語教育センター

一九九四年四月一四日

『五味太郎 絵本選集 パートー Essence of Japanese』

メタローグ

「同志社女子大学 日本語日本文学」投稿規定

一、当誌は同志社女子大学日本語日文学会の機関誌として、会員に学術的研究の発表の場を提供するものです。会員の意欲的な投稿を広く募ります。

二、論文は原則として四百字詰原稿用紙で三〇〜四〇枚程度、資料、翻刻等は一回の掲載を六〇枚程度とします。この範囲を超える場合は、採否を編集委員会にご一任下さい。(ワープロ使用の際は四百字詰原稿用紙に換算した枚数を末尾に明示して下さい。また図版、写真などがある場合は挿入箇所を指示したうえで、提出して下さい。)

三、注、引用の体裁は統一を図らせていただきます。特別の場合を除き、校正は再校までとし、以後は編集委員会の校正とします。原稿は返却しますが、必ずコピーをとってご提出下さい。

四、第七号締めきり 一九九五年三月末日厳守。(原稿は日本語日文学会事務局知徳館三二四号室宛にお送り下さい。)